

様式 5

平成 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 29 年 10 月 18 日

学 長 殿

所属部局・職名 人間発達文化学類・教授

申 請 者 名 鶴巻正子

助成事業の区分 (該当するものに印)	研究協力に関する事業 (学術出版・叢書・学会等運営・学会参加) 学術振興に関する事業 (学生・事務職員・その他の特別事業)
事業名	日本行動分析学会第 35 回年次大会 福島大会
事業実施期間	平成 29 年 10 月 6 日 ~ 平成 29 年 10 月 8 日
成果の概要	<ul style="list-style-type: none"><li>・開催期間：平成 29 年 10 月 6 日(金)～8 日(日)3 日間</li><li>・開催場所：コラッセふくしま(福島市)</li><li>・大会準備委員会： 委員長 鶴巻正子(福島大学人間発達文化学類) 協力委員 高橋純一(同上、非会員)</li><li>・参加者：381 名</li><li>・発表演題等 特別講演(Dr. Harry A. Mackay) 大会企画シンポジウム 学会企画シンポジウム 公募企画シンポジウム 6 件 自主企画シンポジウム 5 件 ポスター発表 102 件 会員集会、理事会、編集委員会</li></ul> <p>全国から心理学の一分野である行動分析学の研究者、大学院生、学部生など、予約参加、当日参加を合わせて 381 名が参加した。特別講演としてアメリカから Dr. Harry A. Mackay (Northeastern University and Shriver Center) を迎え、Generating syntactic repertoires: Syntheses of Stimulus Sequences, Equivalence Classes, and Contextual Control の演題で特別講演を開催した。3 日間にわたり、活発な学術研究発表と意見交換が行われた。発表論文集の表紙として附属特別支援学校の生徒の作品を使用した。また、休憩時間を利用して附属小学校合唱部による歓迎ミニコンサートを開催するなど、本学附属学校園の協力を得て開催した。</p>